

# 十勝しんむら牧場のアニマルウェルフェア

～しんむら牧場の取り組みから～

新村浩隆\*・瀬尾哲也\*\*

十勝しんむら牧場は、昭和8年に富山から入植しました。

私で4代目になります。

小さな頃から牛がいる生活をおくってきましたが、中学、高校に進むにつれ牧場の魅力を感じなくなりました。その当時の牛の飼い方は、スタンション牛舎に365日繋ぎっぱなしで、全て人間が牛の面倒をみている飼い方でした。1日に10時間以上の労働。元気な牛を寝たきりにして、全ての面倒を人間が見る。それで牛は幸せなのか？人間は幸せなのか？

牛は、体に糞の鎧をまとい、足の関節は腫れ、人間は1年中牛の世話に明け暮れている…。

そんな牧場に魅力を感じませんでした。それでも、大学卒業後に牧場の4代目として就農しました。就農した理由は、農業は一生必要とされる仕事。人の命を繋ぐ仕事。そして地域を守る仕事。こんな仕事は他には無い。これは酪農家に生まれた私の使命なのだ。しかし、今のままの牧場ではだめだ。牛にも人にも環境にも負荷をかける経営ではだめだ。これをイノベーションしていかななくてはならない。

そこで、改めて真剣に酪農経営を考えました。

まず、どの様な経営にするのか。環境負荷の少ない持続的な農業経営にすることが一生必要とされる農業になるだろうと考えました。そう考えると農業は外部エネルギーにかなり頼りすぎている。そして生産したものに対しての価格を決める事ができない。このことが、農業経営を圧迫し、自立できない構造になっているのではと考えました。

そこで、3つの改善すべき柱を考えました。輸入穀物、化石燃料、の依存度を下げる。そして生産物を加工し直接販売して適正利潤をあげる。この3つを解決できる方法はないのか模索した結果、放牧酪農にいきました(図1,写真1)。

\*十勝しんむら牧場 (Takahiro Shinmura)

\*\*帯広畜産大学 (Tetsuya Seo)

POLICY

## 十勝しんむら牧場の「取り組み」

自然とともにいつまでも

### 牧場マップ

□ 農場番号 1~9が放牧地です。

毎日、常に新鮮な草が食べられるように畑をローテーションします。



図1 十勝しんむら牧場の「取り組み」



写真1 牧場内の牛の様子

なぜ、放牧酪農がこの3つを改善できるのか。それは、牛を牛らしく飼育する事からはじまります。

まず、輸入穀物の依存度を低くするという事は、放牧により短草を牛達は食べます。草高20~30cmくらい。この新鮮な短草を牛達は、常に食べます。穀物にも負けない栄養価の短草を飽食する事により穀物給与量を減らすことができます。放牧地を日々転々と移動する事により一定の草高、栄養の高い新鮮な草を食べることができます。ローテーション放牧の大きな特徴です。

第2に、化石燃料に頼らないというのは、牛にできる事は牛にやらせようことによりトラクター等の使用量は激減します。たとえ半年しか放牧できない北海道でも半年できる事は大きいです。

第3に、生産物の加工です。

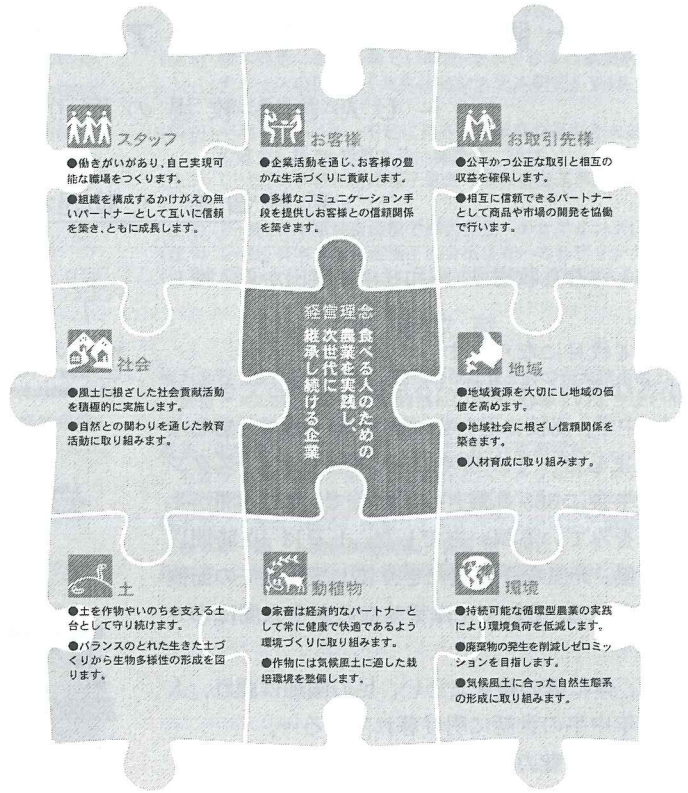
私たちが生産した牛乳。この牛乳も当たり前のことですが、飲む人がいるから経営は成り立つわけです。

では、その人たちは北海道の牧場にどのようなイメージを抱いているのでしょうか？

広い草原で牛達はのびのびと自由に草を食む。きっとそんなイメージをうかべる事でしょう。しかし、実際には放牧で牛を飼っている牧場は、北海道酪農の5%程しかありません。飲む人のイメージする牧場を作りそこから搾られた新鮮で美味しい牛乳。そんな牧場をつくれればお客様に牧場のストーリーからしっかり伝え、加工品にも物語ができ、自社加工販売をする上でも大きな特徴になります。

オリジナル商品の製造販売により乳価を自分で決め再生産可能な適正利潤の確保に繋がります。この様に放牧を取り入れる事により3つの改革を実践できるのです。

また、しんむら牧場は、「食べる人のための農業を實踐し、次世代に継承し続ける企業」を経営理念として掲げています。スタッフ、お客様、お取引先、社会、地域、土、動植物、環境のつながりを大切にしています(図2)。



RELATION 十勝しんむら牧場の「在り方」  
自然・人・社会とのつながり

図2 十勝しんむら牧場の「在り方」

ところで、放牧酪農はただ単に放牧地に牛を放せば良いというものではありません。良い土を作り、良い草を作ってはじめて放牧は始まります。

単純に広い草地にのびのびと牛を放すからアニマルウェルフェアだというのは、本質からずれてしまうのではないのでしょうか？放牧していてもそこに満足に牛達が欲しがらる草がなければ、時には虐待になっている場合もあります。

では、しんむら牧場が考える良い土とは何か。ミネラルバランス等のとれた土には、多種多様な生物が棲みます。その土から元気な美味しい草が生えます。その草を食べる事により、牛達は元気になります。悪い土には、悪い草が生えます。悪い草は、牛達は食べません。体に悪いと本能的に感じているからです。ここでいう悪い草というのは、雑草という事ではなく、硝酸態窒素等の有害物質を多く含む草のことです。

良い土には良い草が生えます。良い草は、栄養価も高くミネラル豊富です。健康な牛を育てるには、健康な土が必要なのです。

そして、健康な牛からは、健康な糞尿が出ます。その糞には沢山の生物が集まり分解を始めます。ハエにもハエの目的があります。糞だからといって無闇にたかっているのではなく、子孫を残すために糞にたかっているのです。

健康な牛の糞は、牛にとって良いだけでなく、そこに生活する生き物達にとっても良いのです。

アニマルウエルフェアを考えるうえで大切なことは、動物にとって良いだけでなく、関わるもの全てに良いことが、大切なのです。

牛、草、虫、土そして働く人、食べる人。全てに良いことが大切なのです。家畜だけが良いというシステムは長く続きません。

アニマルウエルフェアの基本は、循環だと思いません。生物同士の循環が始まることで相互に良い関係が保たれ、沢山の恵を私たちにもたらしてくれます。

地球の循環の中に入るのがアニマルウエルフェアの次なるステージへ向けての、第一歩だと思います。

アニマルウエルフェアを目指してきたというのではなく、結果的にアニマルウエルフェアに取り組む牧場になってきたという方が適切かもしれません。アニマルウエルフェアを牛の立場からだけではなく、土・草・虫・微生物も含めた大きな視野からも取り組んでいくというのは、革新的です。さらに乳製品の加工販売まで手掛けることで、外部に振り回されることなく価格を決定でき、アニマルウエルフェアを高めるための投資も可能になるでしょう。